

2028年技能五輪国際大会 基本計画(概要)

2024年5月13日

2028年技能五輪国際大会招致に向けた有識者検討会

1. 開催の意義・目的

① 人への投資の重要性をアピール

- 経済・産業の持続的な発展に向けて世界的に人への投資の重要性が増す中、国内においては技能者不足の深刻化や技能伝承が課題であり、技能人材の育成、特に若者や女性、障害者への投資の重要性を、技能の力で成長を遂げてきた日本・愛知から国内外に強く呼びかけます。
- ものづくりに加え、デジタル化やSDGs等の社会課題への対応を含め、技能立国・日本としての底力をアピールするとともに、社会全体の発展に貢献します。
- 自国開催に向けて、官民一体となった中長期的な選手強化を戦略的に展開することで、その成果を大会の成績として輝かしく刻むとともに、若者の技能レベルの向上を図るなど、技能五輪国際大会を活用した人材育成の取組を強化していきます。

② 大会を通じた経済と産業の発展

- WSIのVISION2025に強く賛同し、「技能の進化が、優れた製品やサービスの創出をもたらし、経済と産業の発展を促すことで、実現される豊かな社会において次の世代を育む好循環を築く」という認識の下、大会の開催を通じて若者の技能レベルの向上や技能尊重気運の醸成を図ることで、今後の我が国や世界の経済・産業の発展に貢献します。
- 大会見学や体験プログラムへの参加、事前広報活動などを通じ、小中高生やその親等への職業観教育の充実や技能の伝承に向けた取組を推進します。

③ 大会の持続可能性の向上

- 大会インフラの最適化や資源・エネルギー消費の削減などの環境負荷低減にも努め、世界的なSDGsへの取組に貢献するコンパクトでサステナブルな大会を目指します。
- 2030年以降の模範となる新たな大会モデルを示し、人々の印象に残るインパクトのある大会を実施することにより、大会の持続可能性向上に日本が貢献します。

2. 開催テーマ

- コロナ禍を経て世界が劇的な変化をする中で、改めて“つながる”ことの重要性を認識
- 技能とさまざまなヒト、モノ、コト、組織・国・地域などを“つなぐ”ことで、持続可能な技能五輪国際大会のモデルと、技能を尊重することから生まれる持続可能な未来を展望する。

<大会テーマ>

「技能」がつなぐ、持続可能な未来
Linking skills for a sustainable future.

Linking Skills



人
People

若者や女性、障害者を含むすべての人々のキャリアと人生を豊かなものにする



産業・経済
Industry and Economy

伝統産業・地域産業・新たな産業などを結ぶことで、持続可能な経済の発展と産業の革新を推進する



世界
Global Society

技能をめぐる対話を促進し、地球社会に共有されている様々な社会課題の解決に貢献する

3. 開催テーマに基づく主な取組

1

人をつなぐ

(1) 世界の若年技能者をつなぐ

日本が誇る産業観光施設等を見学し、技能の学びと日本らしさの体験の機会となるエクスカージョンを実施するとともに、コンペティターラウンジの設置等で、各国選手の交流機会を演出。

(2) 熟練技能者と若者をつなぐ

技能の伝承や将来を担う技能人材の育成・確保につながる、一級技能士等によるデモンストレーションや若年技能者などに対する技術指導の実施。

(3) 多様な人をつなぐ

ユニバーサル社会の実現に向けて、女性や障害者の技能を紹介するイベント等の実施。
次代を担う若者やその親などを対象に、技能への興味・関心を高める技能体験プログラム「スキルズラボ」を提供。

2

産業・経済をつなぐ

(4) 国内外の産業をつなぐ

技能五輪メダル獲得企業や国内スポンサー、地元伝統産業を代表する企業などによる「ジャパンスキルショーケース」(主催国展示)を実施し、日本の高い技能・技術を発信。また、「グローバルスキルズ・ビレッジ」(参加国展示)と融合することで、世界の優れた技能・技術も併せて発信。

(5) 成功体験をつなぐ

各国の職業教育・訓練(TVET)や、経済・産業に関連したテーマを扱うフォーラムを開催。
技能五輪国際大会メダリストや世界的に著名な最先端企業・ベンチャー企業によるフォーラムを実施。

3

世界をつなぐ

(6) 参加国と未参加国をつなぐ

新規加盟国、国際大会の参加基準に満たない国等に向けた、大会の見学・体験イベントの参加を通じて、技能五輪への参加機運を高める「技能五輪体験プログラム」の実施。
情報メディアを活用し、各国の国内技能競技大会をPRすることで、新規加盟国等の技能五輪国内大会の開催や技能五輪国際大会への参加を促進。

(7) 世界からの参加者と市民・コミュニティをつなぐ

「一校一国サポート事業」の実施の他、通訳やおもてなし等での市民ボランティアの活動を通じ、参加者と市民・コミュニティとの交流を促進。

(8) 2028年と未来をつなぐ

新たな大会モデルとなるコンパクトでインパクトのある大会を成功させ、2030年以降のWSIムーブメントを先導。
ワールドスキルズミュージアムと連携した展示「特別キャリア展」の実施。

4. 開催概要

大会概要(想定)

項目	概要	
名称	第49回技能五輪国際大会（日本・愛知大会）（日本名）	
	WorldSkills Aichi2028（英文名）	
日時・場所	競技	愛知県国際展示場
		2028年11月16日（木）～11月19日（日）
	開会式	IGアリーナ
		2028年11月15日（水）
閉会式 さよならパーティー	IGアリーナ	
		2028年11月20日（月）
競技職種	62職種	WorldSkills International 総会などで決定
参加国・地域	65か国・地域以上	
参加者	選手	約1,700人（フランス・リヨン大会の見込から算出）
	競技関係者等	約3,600人（フランス・リヨン大会の見込から算出）
目標来場者数	30万人以上	
主催	公益財団法人 第49回技能五輪国際大会 日本組織委員会（仮称）	
共催	WorldSkills International	

会場候補地



■愛知県国際展示場（Aichi Sky Expo）

- 日本初の国際空港直結型の展示場であり、日本唯一の常設保税展示場※
- 2019年の開業以降、技能五輪全国大会を5回開催（予定含む）



※ 保税展示場では、海外からの貨物への課税免除、手続きの簡易化により、国際規模の見本市、展示会、博覧会などの運営円滑化を図ることが出来る。

日程(案)

			競技	公式行事	会議・レセプション
準備期間	C-7	11月9日 木	到着 TD,TDA,CE,DCE		
	C-6	11月10日 金	到着 E,I		職種管理チーム/ワークショップ・マネージャー：レセプション
	C-5	11月11日 土		エキスカージョン TD,TDA,CE,DCE,E,I	
	C-4	11月12日 日	到着 OD,OO,C,TL		競技運営委員会代理人・審判長チーム・リグ・夕食会
	C-3	11月13日 月		エキスカージョン OD,C,TL	理事会
	C-2	11月14日 火		選手下見	総会・理事会
	C-1	11月15日 水			一校一国 開会式
大会開催期間	C1	11月16日 木		大会1日目	フォーラム
	C2	11月17日 金		大会2日目	フォーラム・フォーラムレセプション
	C3	11月18日 土		大会3日目	
	C4	11月19日 日		大会4日目	理事会
終了後	C+1	11月20日 月			閉会式・さよならパーティー 理事会・総会
	C+2	11月21日 火	出発		理事会

* WSIにより競技の見直しが随時行われており、大会日数など今後変更の可能性もある。

* 表中の略称は右表のとおり。

TD	技術代表
TDA	技術代表補佐
CE	チーフ・エキスパート
DCE	副チーフ・エキスパート
E	エキスパート
I	通訳
TO	技術オペレーター
OD	公式代表
C	選手
TL	チーム・リーダー
O	オペレーター
OO	公式オペレーター

■IGアリーナ（愛知国際アリーナ）

- 最大収容17,000人を誇る世界最高レベルのスマートアリーナ
- 2025年7月に開業予定



©Aichi International Arena Co.,Ltd.
画像はイメージです。デザインなどは変更になる場合があります。

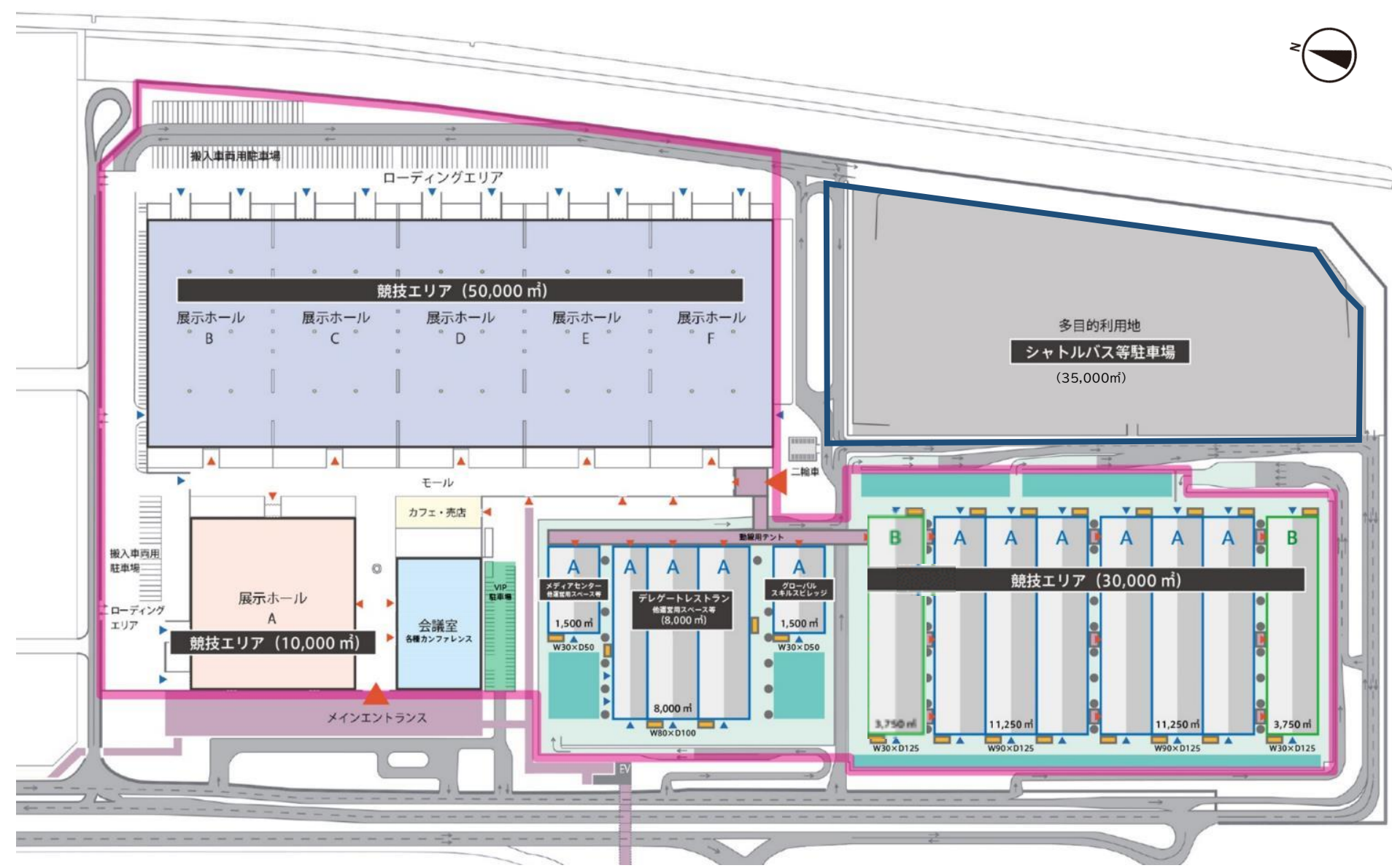
5. 開催会場(競技会場)

コンパクトな会場構成

- 中部国際空港に直結し、徒歩圏内に選手用ホテルの確保が可能で、技能五輪全国大会の開催実績も豊富な愛知県国際展示場(Aichi Sky Expo)を全面的に活用する。
- 常設展示ホールと仮設エリアを併用し、選手・競技関係者と見学者双方の利便性に配慮した密度の高い体験空間を実現する。
- WSIと連携し、各競技スペースや公式行事等のコンパクト化を進め、インフラコストの効率化を追求する。
- 再生可能エネルギー由来の電力による競技運営や、会場設営・大会運営における3R(Reduce、Reuse、Recycle)の徹底など、環境負荷の低減を図る。
- 労働者の安全衛生面等に配慮の上、会場設営・大会運営を行う。

会場レイアウトイメージ

※ 会場レイアウトは直近の2024年大会の準備状況やWSIとの協議等を踏まえながら検討を進める



▶ 出入口
▶ 搬入出口
 仮設トイレ
● 駐車場照明灯
 資材ストレージ
 制限エリアライン

会場総面積

常設展示場	90,000㎡	常設ホール 会議室等	60,000㎡ 30,000㎡
仮設施設	41,000㎡	競技エリア用 レストラン等用 MC・GSV等用	30,000㎡ 8,000㎡ 3,000㎡
合計		131,000㎡	

競技エリア面積

常設ホール	60,000㎡	
仮設施設	30,000㎡	
合計		90,000㎡

6. 個別事業計画

(1) 競技計画

公式競技はWSIが決定する事項。また現在、選手数増加に対応すべく競技方式の見直しも進められている。主催国・地域は、WSIの決定に沿った競技支援を行う。

1. 公式競技

選手が競技に集中できる選手ファーストな大会とすることを前提に、WSIのビジョンに連動し、2030年以降の模範となるコンパクトな大会モデルを新たに示すことで、大会の持続可能性の向上に貢献する。

2. 競技設備・工具

日本選手が実力を発揮でき、日本の工具メーカー等の強みを活かせるようにWSIと協議し、協賛プログラムも活用し、準備する。

また、競技会場となる愛知県国際展示場が保税展示場であることを最大限に利用し、海外から調達する競技設備や選手の持ち込み工具などの税負担の軽減を図る。

(2) 公式行事

1. 開閉会式・さよならパーティー

日本・愛知の魅力あふれる演出を行い、選手の思い出に残る開閉会式やさよならパーティーを開催する。

2. 会議・フォーラム

大会と同時期に開催されるWSI総会・理事会に合わせて、職業教育・訓練(TVET)や経済・産業に関連したテーマを扱うフォーラムを開催する。



3. エクスカーション

日本が誇る産業観光施設や世界有数の企業関連施設等を見学し、技能の学びを深めることや、日本らしさを堪能できるエクスカーションを提供する。

4. 一校一国サポート事業

各国選手による小中学校等訪問や、訪問先の子どもたちが大会見学で当該国の選手を応援するなどの国際交流事業を実施する。

※2007年静岡大会で日本が開発・実施し、現在まで受け継がれている交流プログラム

5. レセプション

競技関係者やフォーラム関係者向けにレセプションを開催する。

(3) 付帯事業

1. 展示催事プログラム

日本・愛知の技能、世界の技能、未来の技能に触れる展示催事プログラムを提供する。

■グローバルスキルズビレッジ(参加国展示)

技能の重要性や多様性をアピールする参加国によるブース出展

■ジャパンスキルショーケース(主催国展示)

伝統と最先端をつなぐ日本の技能を紹介する主催国によるテーマ展示
日本の伝統的な技能を生かしたデモンストレーション等

■スポンサー展示

WSI公認スポンサー、大会スポンサーなどによるブース出展

2. 教育プログラム

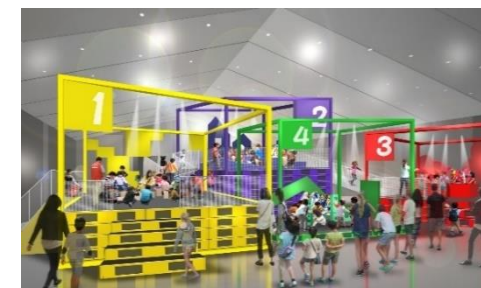
次代を担う国内外の若者たちが技能や技能競技大会への興味・関心を高めることに資する教育プログラムを提供する。

■技能五輪体験プログラム

新規加盟国や国際大会の参加基準に満たない国を対象に、大会の見学・体験イベントへの参加を通じて、技能五輪への参加の機運を高めるプログラム

■スキルズラボ

小中高生やその親を対象に、競技に関連した技能や伝統技能、未来の技能など幅広い技能を体験するプログラム



■特別キャリア展

ワールドスキルズミュージアムと連携した展示のほか、過去から未来に向けた選手のキャリアを紹介する展示
一級技能士等によるデモンストレーション、若年技能者に対する技術指導

■競技解説付きガイドツアー

県内に加え、全国の小中高校、専門学校などの学生たちを中心とした一般見学者向け競技解説付きガイドツアーを実施

3. ユニバーサルプログラム

女性や障害者の技能を紹介するなど、多様な人々が技能に携わることを促すイベントを実施する。

6. 個別事業計画

(4) 運営計画

1. 安心・安全・快適な運営

国際会議、国際イベントなどの日本・愛知の豊富な開催実績を生かし、安心・安全・快適な大会運営を行う。入退場管理、セキュリティチェックを行うことで、テロ対策を行うとともに、混雑時の入場規制を行うことで、安全に配慮する。

2. 競技解説

タブレットやスマートフォンなどモバイル端末を活用した、誰もが簡単に競技解説を受けられるプラットフォームを構築する。

3. ボランティアによる市民参加の重視

会場案内や公式参加者のアテンドなどの一般業務に加え、通訳、競技解説など、専門性を生かした参加も積極的に導入し、ボランティアの主体的な取組を大会の充実につなげる。

4. 危機管理

怪我、病気などのほか地震、津波など大規模災害にも備え、警察・消防など関係方面と連携して迅速に対応にあたることのできる体制を構築する。

5. 環境配慮等

「持続可能な開発目標」(SDGs)や国連の「ビジネスと人権に関する指導原則」にも配慮し、ISO20121規格を踏まえたサステナブルな大会運営を行う。

(5) 輸送宿泊計画

1. 輸送・宿泊

選手・関係者の円滑な入国をサポートするとともに、競技運営に支障がないように配慮する。また、一般来場者に対しては環境に配慮した輸送手段の確保を行う。

■選手

選手の宿泊施設を競技会場から徒歩圏内に集約。併せてデリゲートレストラン、交流の場としてのコンペティターズラウンジを競技会場内に設置。

■関係者

関係者宿泊施設は、競技会場周辺(空港島内及び常滑市街地)と名古屋市内に確保。鉄道とシャトルバスで時間に正確な輸送を実施。

■一般来場者

環境に配慮して鉄道を主とした公共交通機関での来場を呼び掛け。

2. パッケージプラン

参加国のニーズに応じた多彩な価格帯のパッケージプランを提供する。

(6) 広報計画

1. 技能および技能者への尊敬を育むブランディング

技能競技大会の開催を通して、技能尊重ムーブメントを拡大することを広報計画の最大目標と位置づけ、技能および技能者への尊敬を育む、魅力的なブランディングに取り組む。

2. 段階的な広報活動の展開による大会の認知向上・来場促進

時期ごとに明確なターゲットと目標を設定した段階的な広報活動を招致段階・大会準備段階から展開することで、大会の認知度向上を図り、来場促進につなげる。

- ①招致広報(～2024年9月)
招致を目的とした国内での機運の醸成、加盟国の支持獲得
- ②参加促進広報(2024年10月～2027年10月)
大会準備段階における大会の認知向上、事業参加者の拡大
- ③来場促進広報(2027年11月～2028年11月)
開幕直前における一般見学者の来場促進
- ④会期中広報(2028年11月)
メディアセンターを中核とした、積極的な国内外へのパブリシティ活動
- ⑤成果継承広報(2028年12月～)
大会終了後における大会レガシーの継承

3. 多様な関係者の参画・多様な媒体を活用した広報の実施

国・県・関係団体・技能五輪参加選手・関係者など幅広いステークホルダーの協力の下、全国規模で広報活動を実施。

SNSメディアなど多様な広報媒体を活用して、特に若年層をターゲットに、大会開催機運の醸成を図るとともに、大会への参加を呼びかけていく。

(7) 協賛勸奨計画

1. 協賛システム開発

過去大会で実施されてきた協賛プログラム、WSIの協賛プログラムを尊重しつつ、より主体的な企業等の参加を呼び込むための仕組みを構築する。

■オフィシャルパートナー

■競技・運営パートナー

競技及び大会運営に必要となる機材等の現物協賛、技術協力など

■プログラムパートナー

教育プログラム等の各種プログラムの共同開発、運営協力など

2. 協賛活動等

協賛活動を行う体制を整備し、広く協賛・寄付を求める。

6. 個別事業計画

(8) 事業継承計画(レガシー)

1. 技能人材の育成に対する気運醸成

国際大会の実施に合わせて行う、教育プログラムやガイドツアーなど職業観教育の充実に関する取組を、国内の各種技能競技大会に継承する。

2. 技能振興に関する国際的な連携強化

国際大会の開催を通じて築いた、WSIやWSI加盟国とのつながりを一過性のものにするのではなく、継承し発展させていくため、国内大会への海外選手の招聘や国内選手の国際的な技能競技大会への派遣、関係機関との調整などを行うコーディネート機能を持つ、「スキルリンケージセンター(仮称)」を創設する。

3. 持続可能な大会モデルの提示

より多くの国が大会に参加する機会を設けつつ、コンパクトでインパクトのある大会を開催し、様々な国が国際大会を開催できるといった、2030年以降も持続可能な大会のモデルを示す。

(10) 推進体制

産官学民の総参加による推進体制を確立

① 有識者検討会 (2023年～2024年)

2028年技能五輪国際大会の日本・愛知県への招致に向けて、実施計画の検討等を行うほか、招致に関する事、国内の招致機運・技能尊重機運の醸成に関する事等について幅広く意見交換を行う。

② 設立準備委員会 (2024年～2025年)

WSI総会における2028大会開催決定を受け、国、地元自治体、関係機関、経済団体等の協力の下、組織委員会を準備する委員会を設置する。

③ 公益財団法人第49回技能五輪国際大会日本組織委員会 (仮称) (2025年～)

大会の実施主体となる組織委員会を国、地元自治体、関係機関、経済団体等の協力の下、設置する。大会の実施準備、大会運営、成果継承に取り組む。

(9) 財政計画

国、自治体が協力し、責任を持って大会を開催するための基礎的な財政を負担する。民間企業による参加、参画を積極的に促す。競技スペースのコンパクト化などをWSIと協議しながら、大会開催経費の節減に努める。

事業費の構成

(百万円)

収入		支出	
1. 公的資金・民間協賛	19,212	1. 競技計画(設備・機材購入費等)	5,255
2. 事業収入	2,738	2. 行事(公式・付帯事業費等)	1,282
(パッケージ収入)	(2,661)	3. 会場(設営・整備費)	8,817
(開閉会式入場料(P)、 競技会場入場料(P)、 営業出展料、グッズ販売など)	(77)	4. 輸送宿泊(宿泊費、交通費、食費等)	2,220
		5. 大会運営(運営費、広報費等)	2,106
		6. 事務局運営(人件費、物件費等)	2,270
計	21,950	計	21,950

※民間協賛の内訳は、競技設備等現物協賛、資金協賛を含む
 ※各種入場料については過去大会の実績等を踏まえ、今後検討
 ※随時検証を行い必要に応じて見直しを行う